

クラウドの利用をコントロールし、 組織全体のガバナンスを確立して コスト管理と効率化を実現する

余分なクラウドの利用と支出をなくして、
新しいビジネスの成果をサポート



目次

2 デジタル・トランスフォーメーションの 最中にコントロールを維持する

調査方法

3 組織全体のクラウド管理ツールの 課題と利点

5 クラウドのガバナンスを確立して、 企業全体の管理機能を最大化する

7 ガバナンスの強化により、無駄をなくし コントロールを取り戻す

キンドリルをおすすめする理由

デジタル・トランスフォーメーションの 最中にコントロールを維持する

パブリッククラウドの活用は、事業部門がIT部門の承認なしにリソースを迅速にプロビジョニングし、インフラストラクチャーを効率的に拡張して市場のニーズを満たすことを可能にしてきました。シャドーITと呼ばれるこうしたIT部門以外で承認されたリソースの増加は、セキュリティを低下させ、ハイブリッドマルチクラウド環境全体でクラウド支出を急速に増加させる可能性があります。以前は、事業部門は従来のインフラストラクチャーの実装をIT組織に依存していたため、コントロールは有機的に行われてきました。アクセスが簡単であるがために不正なクラウドの利用が増えると、システム全体の可視性が失われ、企業のITリーダーがコントロールを維持することが困難になります。

組織は、企業全体のクラウド利用にガバナンスを効かせる必要があります。クラウド・ガバナンスは、ポリシーと標準のフレームワークであり、可視性と制御を取得し、マルチクラウド環境全体のコスト、パフォーマンス、およびリスクを効果的に管理するのに役立ちます。コストがさまざまな事業部門、プロジェクト、および開発環境にどのように関連付けられているかを理解することで、ガバナンスは強化されます。提供されたインサイトを使用してクラウド支出を統合することにより、組織全体でコストを削減できます。これらのコスト削減で浮いた費用は、顧客エンゲージメントを評価または改善するための時間を加速させる別のクラウドプロジェクトへの投資に利用できます。

調査方法

最近実施された IBM® Market Development & Insights (MD&I) の調査は、ハイブリッドマルチクラウドの世界で環境を管理するときに企業が直面する課題と、クラウド管理プラットフォームを使用することの潜在的なメリットに対する深い理解を追求しました。調査対象の100のビジネスとテクノロジー・リーダーのうち、40%は経営幹部レベルの戦略的副社長 (SVP) または副社長 (VP) であり、60%はITディレクター、マネージャー、または管理者です。彼らの回答は、ITリーダーがクラウドの利用と支出をより効果的にコントロールおよび最適化する方法を模索していることを示しています。

組織全体のクラウド管理ツールの課題と利点

組織でベンダーロックインを回避し、稼働時間を最大化し、最高の価格とパフォーマンスでクラウドベンダーを使用してワークロードを確実に展開する場合は、マルチクラウドの採用が重要です。一方で、ITリーダーは導入時に従来のインフラストラクチャーとクラウド・インフラストラクチャーを管理する必要がありますが、すべての管理ツールがマルチクラウド環境が引き起こす課題に対応できるように構築されているわけではありません。

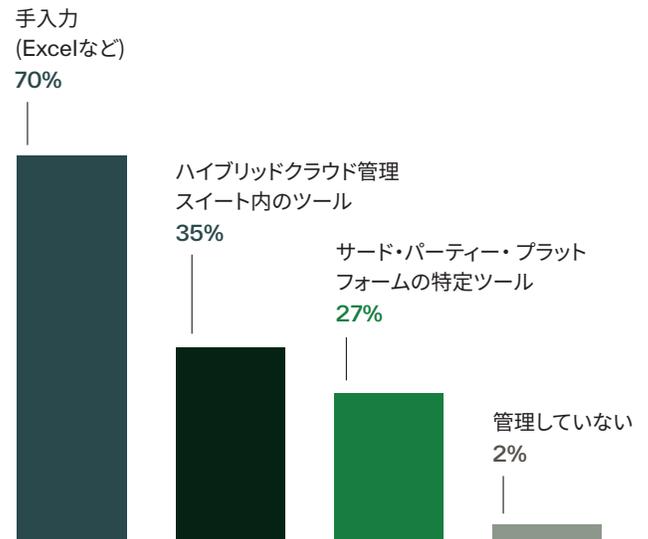
課題

ITチームがマルチクラウド採用の課題に対処するためのプロセスとツールを作成する際に、非効率的なワークロードのプロビジョニングを行うと、コストとリスクが急速に増加し、運用に悪影響を与える可能性があります。MD&Iの調査によると、クラウドのガバナンスとコンプライアンスを確保するために自社が導入しているツールとプロセスに強い自信を持っているのは調査対象のITリーダーの15%にとどまります。ハイブリッドマルチクラウド環境全体でクラウド・プラットフォームを管理するためのツールが不適切だと、予算支出をコントロールと総合的なクラウド利用状況の把握ができなくなり、複雑さが増す可能性があります。

予算支出を管理できない

MD&I調査の回答者のうち、46%が、複数のITツール、システム、およびプロセスを監視し、その結果として生じる過剰な運用コストを主要な課題として挙げています。クラウドの支出を効果的に監視および管理できることに強く同意しているのは調査したリーダーのわずか5%です。調査対象のほとんどのITリーダーは、これらのコストを手動で追跡しています。ただし、一部の企業は、ハイブリッドクラウド管理スイート内のツールまたはサードパーティのプラットフォーム固有のツールを使用しています。これらのアプローチを採用する企業のリーダーは、事業部門間での不整合、シャドーITへの従業員の支出の制御不能、または効果のない仮想マシン（VM）の支出に直面する可能性があります。これらの見落としは、組織にとって費用がかかる可能性があります。

図1: 企業によるクラウド支出の管理方法



クラウドの総合的な利用状況の把握の欠如

ITリーダーは、多くの場合、マルチクラウド資産全体でのクラウドの使用と予算支出を一元的、総合的に把握することができていません。調査結果によると、回答者の38%が、クラウド全体のコストと資産の使用率をリアルタイムで把握できないことを主要な課題として挙げています。さらに、調査対象者の45%がクラウドプロバイダーの可視性が断片的であることを課題と捉えています。

ITリーダーがエンタープライズ・クラウドの使用を理解するためのツールには、ハイブリッドクラウド管理スイート、手入力のスプレッドシート、サードパーティ固有のプラットフォームが含まれます。ただし、サードパーティのプラットフォーム・プロバイダーは常に透明性が高いとは限りません。一部の組織は、マルチクラウド管理プラットフォームを組み込むと、非アクティブなVMが存在することに気がきます。効果的な戦略を欠いた非効率的なクラウド利用の管理は、組織のクラウドへのニーズと予算を満たす能力を限定的にする可能性があります。

複雑さの増加

管理を複雑にする要因には2つあり、それらが事業部全体でのクラウド使用におけるガバナンスの非効率性を悪化させます。その要因は、複数のクラウドプロバイダーインターフェースの使用と、複数のツール、システム、およびプロセスの使用です。

回答者の39%は、クラウドの展開、消費、運用、ガバナンスを管理するために必要な複数のクラウドプロバイダーのユーザーインターフェースに関連する複雑さを主要な課題として挙げています。この複雑さは、各クラウドプロバイダーがマルチクラウド環境に追加されるにつれて増大する可能性があります。実際、回答者の60%は、複数のツール、システム、およびプロセスの使用によって複雑さが増したことが、組織にとっての主要な課題であると述べています。

システムを簡素化できないことは、セキュリティおよびコンプライアンス違反を監視する組織の能力に悪影響を及ぼします。調査対象のITリーダーは、セキュリティとコンプライアンスの確保が、環境全体にわたるIT運用を管理する上での主要な課題の1つであると述べています。

図2:IT環境全体にわたる管理の主な課題

複数のツール、システム、プロセスを使用していることによる、さらなる複雑性

60%

IT環境全体でセキュリティとコンプライアンスの要件を確実に満たす

59%

クラウドのデプロイ、利用、運用、ガバナンスの管理に必要な複数のユーザーインターフェースに関連する複雑性

39%

クラウド・プロバイダー間でのモニタリングと管理の不整合

38%

複数のクラウドにまたがるコストおよび資産利用についてのリアルタイムの可視性の欠如

38%

複数のツール、システム、プロセスを使用していることによる、クラウドサービスの発注およびプロビジョニングの遅延

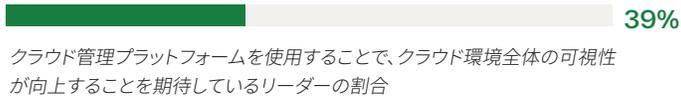
10%

メリット

クラウド管理プラットフォームは、企業のリーダーがワークロードの使用率を最適化し、ガバナンスを通じて従来のデータセンターおよびクラウド環境全体で支出するためのプロセスを確立するために必要なツールを提供するのに役立ちます。管理プラットフォームは、システム全体の可視性を提供し、価値実現までの時間を短縮し、運用効率を高めることで、組織のデジタル変革をシームレスに加速できます。

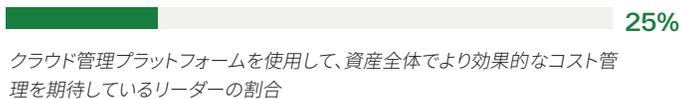
よりよい可視性

調査によると、ITリーダーの39%は、クラウド管理プラットフォームを使用することで、複数の環境にわたるコストと資産の使用率を可視化できると期待しています。システム全体の可視性を高めることで、企業はワークロードのプロビジョニングの制御を強化し、シャドーITを削減できます。回答者の38%は、クラウド管理プラットフォームの実装が、マルチクラウド環境全体でのクラウドサービス消費のガバナンスとコントロールの確立に役立つと考えています。



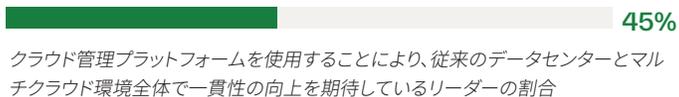
効果をより早く実現

すべての調査回答者の25%が、ハイブリッドマルチクラウドエステート全体でより効果的なコスト管理を通じてクラウド管理プラットフォームを使用することでメリットが得られると期待しています。クラウド管理プラットフォームの実装からシステム全体に提供される可視性は、ITリーダーがクラウドの使用を正確に表現し、チームが支出を監視および最適化するのに役立ちます。



運用効率の向上

ITリーダーからの回答によると、15%は、問題のあるデバイスをすばやく特定することで、可用性と解決時間を改善することで、クラウド管理プラットフォームのメリットを期待しています。問題の特定から問題の解決までの時間を短縮することで、チームは日常業務でより効果的になり、パフォーマンスの一貫性を高めることができます。従来のデータセンターとマルチクラウド環境全体で一貫性は、調査対象の回答者の45%がクラウド管理プラットフォームから得られると期待しているメリットです。



企業内にクラウドガバナンスを確立し、管理機能を最大化する

マルチクラウド環境は、複数のベンダー間でレジリエントで、スケーラブルで、透明性を保った状態である必要があります。プロバイダーごとに異なる管理ツールを使用することは非効率的であり、コントロールの欠如はITチームの不満が高める可能性があります。多くのITリーダーは、予算のコンプライアンス、技術的な正確性、プロビジョニングされたシステムのセキュリティ、およびクラウドの使用を追跡することにより、統一されたエクスペリエンスを提供し、インフラストラクチャの制御を取り戻し、マルチクラウド環境を最適化しようとしています。

クラウドガバナンスの確立は、コントロールを取り戻すための重要なステップです。余分なクラウドの使用と支出をうまくなくすために、企業は次の4つの推奨事項を実装する必要があります。



クラウド管理コントロールを確立する



コストを管理し、消費の管理を始める



コスト管理を一元化できるツールを使用して、資産の使用を包括的に可視化します



使用状況からインサイトを収集して、支出をさらに最適化します

クラウド管理コントロールを確立する

コストと資産使用率を一元管理するためのツールを導入します。ネイティブプラットフォームの一部であるツール(特定の目的のために開発された、ハイブリッドマルチクラウド管理スイートツールによって提供されたツール、またはマネージドパブリッククラウドサービスの一部として含まれたツール)は、企業が利用できるすべての異なるコスト最適化リソースです。調査対象のITリーダーの10人に7人は、自社のクラウドのコストを手動で監視しています。このアプローチは、プラットフォーム間でコストを削減し、機能を向上させるのに役立ちますが、時間がかかり、実際の支出合計と報告された合計の間に不一致が生じます。ハイブリッドクラウド管理スイートまたはサードパーティプラットフォーム内のツールを使用する組織のリーダーは、レポートの精度を高めるために適切な措置を講じていますが、レポートされたクラウド支出と実際のクラウド支出には違いがある可能性があります。

コスト管理機能を使うと、担当者やそのチームは、従来の環境とクラウド環境全体の可視性を高めることができます。これは、回答者の97%が重要とランク付けしている機能です。統合されたエンドツーエンドのプラットフォームは、ポイントごとのソリューションの非効率な組み合わせを使用するのではなく、パブリッククラウドとプライベートクラウドの使用を可視化できます。さらに、このプラットフォームにより、ITチームは、実際の使用と比較して、事業部門の予算内での使用を分析および実行できます。

コストを管理し、消費の管理を始める

財務、セキュリティ、コンプライアンスのポリシーを使用してガバナンスコントロールポイントを確立および実施することは、回答者の95%がハイブリッドマルチクラウド環境を管理する上で重要な機能としてランク付けされています。プロバイダー全体で正確なクラウド支出を表示するのに役立つツールを使用することで、チームメンバーは、このソリューションによって提供されるインサイトによって形成された戦略的意思決定を開始できます。適切なツールを使用すると、財務管理者と最高財務責任者(CFO)は、ライセンス全体で資産を並べ替えて分類し、フィルターを使用して設定を保存し、カスタムタグを作成できます。これらのタグは、事業部門の使用と支出を比較して対処するための詳細を提供します。このデータにより、チームは、分析を通じて開発されたガバナンスルール(使用率が20%未満の資産をスピンダウンするなど)を設定できます。

コスト管理を一元化するツールを使用して、資産の使用を包括的に可視化する

システム間でIT管理を統合することにより、チームメンバーは、クラウドの使用状況を可視化することで、マルチクラウド運用の制御を取り戻すことができます。調査によると、企業リーダーの38%は、複数のクラウドにわたるコストと資産使用率をリアルタイムで把握できていません。一元化されたインターフェースは、使用傾向へのインサイトを提供し、非効率性を明らかにし、日々のクラウド使用を最適化するのに役立つポリシーベースのガバナンス戦略を推奨するのに役立ちます。ツールが提供するソリューションとコントロールは、組織全体のシャドーITをなくし、セキュリティリスクを軽減するための取り組みに役立ちます。

クラウド全体の可視性は、ガバナンスを強化し、チームメンバーが新しい方法でクラウドの使用について事業部門に説明能力を持たせることを可能にします。調査対象のIT担当者のうち、クラウドの使用を効果的に管理していることに強く同意しているのはわずか6%です。個々のクラウドプロバイダーは、組織のリーダーがIT全体の状態を監視するために単一のマルチクラウド管理インターフェースを使用することから得られるインサイトの深さを欠いています。統合されたツールを使用すると、CIO、CTO、およびその他のITエグゼクティブは、資産の使用をモニターし、クラウドをより効果的に使用する潜在的な機会を特定し、以前は未知であった可能性のある行動の傾向を確認できます。

単一のインターフェースは、使用傾向へのインサイトを提供し、非効率性を明らかにし、日々のクラウド使用を最適化するのに役立つポリシーベースのガバナンス戦略を推奨するのに役立ちます。

使用状況からインサイトを収集して、支出をさらに最適化

チームリーダーがプロバイダー全体を可視化し、消費の管理を開始すると、クラウドの使用と支出を最適化し、効率を高めるのに役立つ分析と自動レポートを戦略的に組み込むことができます。調査対象の組織のうち、4人に1人は、ハイブリッドマルチクラウド全体で管理することの費用対効果が高めることで企業が利益を得るとを期待しています。クラウド管理プラットフォームを戦略的に使用することで、チームはルールベースのポリシー(1か月あたりの資産使用に関連する通知など)を作成し、提供されたインサイトに基づいて行動することができます。このデータは、パターンのデータを手動で検索して戦略的な推奨事項を提供できない大企業にとって特に影響力があります。



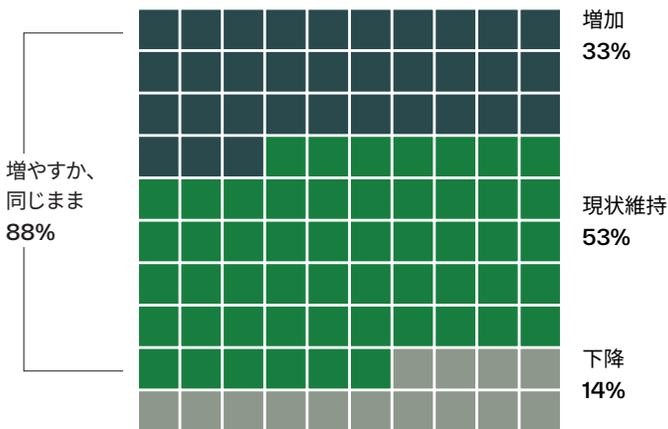
25%

マルチクラウド環境全体での管理の費用対効果の向上を期待する

ガバナンスの強化により、無駄をなくし、コントロールを取り戻す

デジタル・トランスフォーメーションを実施している企業にとって、複数のパブリッククラウド・プロバイダーにわたるガバナンスを積極的に管理および確立することは重要です。MD&Iの調査によると、企業の88%が、今後2年間でクラウドプロバイダーの数を増やす、もしくは維持することを計画しています。ITリーダーは、独自の組織ニーズに基づいてクラウドベンダーから選択する自由を切望しています。このプロセスには、さまざまなプロバイダーを含む従来のクラウドベースのインフラストラクチャで構成されるハイブリッドマルチクラウドのエステートが必要です。組織が成功し続けるためには、無駄なクラウドの使用を排除し、クラウドプラットフォーム全体でクラウドの支出を爆発的に増やすことが重要です。

図3: 今後2年間に使用されるクラウドプロバイダーの数の変化



キンドリルをおすすめする理由

クラウドを使用したデジタル変革の加速は、革新を求めて企業が注力する主要領域です。ほとんどの組織は、将来のクラウド環境は、ハイブリッドとマルチクラウドの両方が存在すると考えています。ハイブリッド型のアプローチでは、お客様はプライベート、専用、およびパブリックの各クラウド・インフラストラクチャーをまたがってアプリケーションを実行します。マルチクラウド型のアプローチでは、お客様は複数のクラウド・プロバイダーを使用して幅広い企業・ワークロードをサポートします。ハイブリッド・マルチクラウドIT環境の管理についてのキンドリルの視点は、一貫してKubernetesとコンテナ・ベースのテクノロジーを使用して選択肢を提供するという戦略に基づいています。お客様は、Red Hatを使用した、アプリケーションの可搬性に対する標準のコンテナ・ベースのアプローチがサポートされることで、ベンダーの囲い込みを防止できます。また、お客様は、消費やDevOps、運用、ガバナンス回りで必要な領域に重点の置かれたコンソールを使用して、セルフサービス型のプラットフォームにアクセスできます。この戦略により、事実上どのようなパブリック・クラウド・フットプリント上でも、Kubernetesベースのホステッド環境であればどこでもサポートされることで、マルチクラウド・モデルが可能になります。このサービスとソリューションにより、キンドリルは、お客様がジャーニーのどの地点にしようとも、お客様のデジタル変革を加速し、クラウド変革、リスクの最小化、および既存投資の活用を通して、ビジネス価値を提供できます。

複数のクラウドと現在のデータセンターにまたがるワークロードの管理を支援するキンドリルの統合マルチクラウド管理プラットフォームを使用することで、お客様は以下のことが可能になります。

- クラウドおよびデータセンターにまたがる、デジタルのセルフサービス型ユーザー・エクスペリエンスによる利用、デプロイ、運用、およびガバナンス
- 最新のテクノロジー、自動化、およびセルフサービスが可能にする機動力とスピード
- 統合されたガバナンスおよび管理を通じたリスクの軽減
- クラウドと自動化の活用によるコストの低減
- 従来型の Information Technology Infrastructure Library (ITIL) から、サイト信頼性エンジニア、および DevOps 主導のクラウドネイティブ・アプローチに至るまでの、資産全体の可視化とアクセス制御

組織によるマルチクラウド環境の管理を支援するという方法は、ハイブリッド・マルチクラウド環境全体にわたる可視性、ガバナンス、および自動化を提供する管理能力をもたらすためのものです。こうした能力としては、マルチクラスター管理、イベント管理、アプリケーション管理、インフラストラクチャー管理などに加えて、既存のツールやプロセスとの統合が挙げられます。

詳細情報

キンドリルには、世界に必要な不可欠なテクノロジー・システムをデザイン、構築、運用する豊富な専門知識があります。私たちは、社会を成長へと導く重要なインフラストラクチャーを発展させることに全力を尽くします。私たちは、新たな方法でシステムを作り出すことで優れた基盤を構築しています。適切なパートナーを選定し、ビジネスに投資し、お客様とともに課題に向き合い、新たな可能性を解放します。

キンドリル・マルチクラウド・マネジメント・プラットフォームが、お客様のハイブリッド IT 環境をどのように簡素化できるかについては、キンドリルの担当者にご連絡いただくか、[kyndryl.com](https://www.kyndryl.com)をご覧ください

The logo for Kyndryl, featuring the word "kyndryl" in a lowercase, sans-serif font. The "k" is a dark red color, and the remaining letters "yndryl" are a lighter red color.

© Copyright Kyndryl Inc. 2021

Kyndryl は、米国もしくはその他の国における Kyndryl Inc. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ Kyndryl Inc. または他社の商標である場合があります。本資料は発行時点で最新のものであり、キンドリルが随時予告なしに変更する可能性があります。キンドリルが事業展開するすべての国で、全製品もしくはサービスが利用できるわけではありません。キンドリルの製品およびサービスは、提供されている契約書の条件および制約に基づき保証されます。記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的のみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。キンドリルの製品およびサービスは、提供されている契約書の条件および制約に基づき保証されます。